

黄金孔雀のオアシス

Dungeon 誌#169 掲載“Oasis of the Golden Peacock”

<http://www.wizards.com/dnd/Article.aspx?x=dnd/duad/20090819a>

参考： <http://d.hatena.ne.jp/Tirthika/20091002>

作者：Tim Eagon / 適正レベル：7 / 適正キャラクター数：5 名 / 公開日：2009,08,19 / 頁数：34)

「違った種類同士の鳥が群れているなど私はこれまで聞いたことがない。思いも寄らない。そんなことが起こりでもしようものなら、以上終わりだ！ そうなったらどうやって奴らと戦えるというんだ？」

アルフレッド・ヒッチコック『鳥』

『黄金孔雀のオアシス』は、7 レベルのキャラクター5 人のための、ダンジョンズ&ドラゴンのアドベンチャーである。このアドベンチャーを終了した場合、PC たちは8 レベルに到達するのに十分な経験点を得られるだろう。DM はこの冒険の主要な舞台となる孤立したオアシスを、自分のキャンペーン・ワールドのいかなる砂漠にも配置することができる。

冒険の背景

最近、顔を隠した放浪のエラドリンの一団が、砂漠の集落を襲っては図書館の中身を根こそぎにし、優秀な賢者たちを誘拐している。不毛の荒野から戻ってきた冒険者たちの報告によれば、この同じエラドリンたちは流砂の下に半ば埋もれた有史以前の様々な遺跡の多くを荒らしまわっているということである。

これらのエラドリンたちは無情な傭兵団で、エムレット・マズリードという名の謎めいた女性のハーフエルフの命令で秘密裏に活動しているのである。彼らの助けを得て、彼女は学術成果の素晴らしいコレクションを達成してきた。彼女はこれらの不法に手に入れた諸々の成果を用いて、黄金孔雀教団の教えを解説していた。これは既に滅び去った古代のドルイドたちの結社で、永劫の秘密を解き明かしたとして伝説になっているものである。

アルコシアやパイル・トゥラスの勃興の遙か以前に、この教団のドルイドたちは原始のエネルギーに満ち溢れた古代のオアシスを発見した。そこには、その力に引き寄せられたありとあらゆる鳥たちがひしめき合っていた。ドルイドたちはすぐには気づかなかったが、その奇妙なオアシスは古代のフェイの渡瀬であった。教団の到着後まもなく、フェイワールドの住人たちは自分たちがそこにいることを明らかにした。彼らの助けを得て教団は、このオアシスを取り巻くエネルギーを、水晶のオベリスクの中に入れ込んだ。彼らはそのオベリスクを、オアシスの中心にある島のうえに建て、満ち溢れるエネルギーを操って、フェイの渡瀬と周囲の自然の双方を守ったのである。繁栄の千年が過ぎるうちに教団の人員は減っていき、彼らの信念も潰えた。最終的に、彼らは孤独に疲れ、オアシスを捨てたのである。その時代に関する知識をいくばくかでも持ち、“孔雀兄弟団”と称する緩い組織の中から教団の失われた伝統を見出そうとする現代の賢者は、今ではほとんどいない。

ごくかすかな祖先の足取りをたどったエムレット・マズリードは、件のオアシスの伝説の力を手に入れるのは自分が生まれ持った権利であると信じるようになった。彼女はオアシスの力を墮落させ、私利私欲のために占有しようとした。そのためには、彼女は教団の

秘儀を読み解かねばならない。そうして後初めて、教団の末裔の誰かを生贄とし、件のオペリスクをその血に浸すことができるというわけである。

とはいえ、エムレットと彼女の傭兵団がオアシスに到着すると、そこを支配しているのはかつてのその地の守護者である。それはハザールという名の、トキの頭をした邪悪なスピックスである。ハザールは件の教団が最後に創り出した存在だったが、失敗作だったのだ。この女スピックスはオアシスに住む鳥たちを支配する能力を持っており、そのためエムレットは件のスピックスとその場限りの同盟を結ばざるを得ない。エムレットとハザールは次第に互いを憎みあうようになり、双方共に互いを裏切る計画を立て始めている。が、今のところ、両者は冷たい緊張緩和状態を維持しており、共通する目的を追求している。

オアシスを拠点とし、エムレットに雇われたエラドリンたちは襲撃を開始する。そして彼女はじきに、教団のヒエログリフを解読するのに必要なものを手に入れるのだ。生贄に捧げるために、彼女はヴォーアという名の歴史家を選び出す。ヴォーアは件の兄弟団の中でも最も優秀な学者の一人である。ヴォーアはずっと昔にエムレットの論文　それは痛切に従わないものとして賛否両論を呼んだのだが　を酷評する批評を書き、彼女の学術的な野望を貶めたのだ。その復讐として彼女は彼を拷問し、尋問した挙句、自分の不浄なる儀式の最中に殺すつもりでいる。ハザールの手助けがある今ならば、ほんの数週間もすれば彼女はあの暗い野望を実現させてしまうだろう。

冒険の概略

ヴォーアを助けてくれ　　そうって兄弟団がPCたちを雇うところから冒険は始まる。エラドリンたちが彼をどこに連れて行ったか、正確なところがわかるものは誰もいない。が、足跡をつけていくと、どうやらオアシスの方に向かっていていることがわかる。件のオアシスは、もっとも近い定住集落から南東におよそ100マイルほどのところにあるのだ。そこに着くまでに、PCたちは旅人に優しいとは言いがたい砂漠を延々と抜けなければならない。さらに、道中、エムレットに雇われたエラドリンの強盗一団と出くわすことになる。こっそりとオアシスに近づく途中、PCたちはオアシスの北端に宿営する数名のエラドリンの傭兵と遭遇する。気づかれずにいようと思うなら、PCたちは彼らの油断ない視線を避けねばならない。

オアシスに潜入してしまうと、エムレットが何をたくらんでいるかを髭髯とさせる手がかりがいくつも見つかる。PCたちはエムレットの小間使いの移り気なドライアドを捕まえて尋問してもいいし、エムレットの居室となっているテントを搜索し、彼女の日記を物色してもいい。そして　救出されたなら、だが　ヴォーアもエムレットの計画について知っている限りのことを話してくれる。最終的にPCたちは、オペリスクの存在と、それがエムレットの計画の中に占める重要性について知ようになる。

エムレットとハザールは両者共に虚栄心の強い傲慢な女性で、ぎりぎりのところでどうやら互いのことを我慢しているといった有様である。この軋轢に気づいた抜け目のないPCがいれば、二人が互いに軽蔑しあっていることを逆手に取って一時的な優位を得ることができる。ハザールと結ぶいかなる同盟も非常にはかないものである。エムレットが死に、エムレットの手下たちも殺されてしまうと、件のスピックス女史はPCたちを裏切る。というわけで、オアシスを取り巻く数々の砂漠のコミュニティに対する脅威を取り除くためには、PCたちは何が起ころうともエムレットとハザールの双方を打ち倒さねばならないのである。

冒険の導入

エラドリンたちがそのあたりを襲っているという知らせは、砂漠に散らばる集落を結ぶ通商路を通してあっという間に広まっている。PCたちがこのあたりに始めて足を踏み入れた場合でも、彼らは最近の出来事を良く知っており、おそらく襲撃の痕ぐらいいは目撃しているというふうにすべきである。特にヴォーアが攫われたというおそろしい噂はこのあたりのどこもかしこもでささやかれており、多くの人たちは、件の学者先生はきっともう死んでしまっただろうと確信している。

しかし、そんな噂にも怯むことなく、兄弟団の若いメンバー二人は冒険者達を探し出し、彼らの師を救って欲しいと頼む。二人のうちでも人好きのするほうのアーキラーは、小柄な体格と、絡まったモップのような黒髪を持つ人物である。彼女の相棒で恰幅のよいもうひとりの人物はファルークという名の若い男で、まるで蛙のような奇妙な顔立ちをしている。そして不機嫌になると、彼は何やら蛙が鳴くような声を立てるのだ。この学者ふうの二人連れはこっそりとPCたちに近づき、非常に丁寧に助けを請う。まず彼らは気前のよいところを見せようとするが、仲間の学徒たちからその日の内に彼らがかき集められるのは、総額の上限が500gpまでの宝石だけである。もしPCたちがさらなる報酬を要求した場合、後からもっと持ってくると彼らは約束する。

運の悪いことに、アーキラーもファルークもヴォーアがどこにいるかということについて、たいした情報を持ってはいない。ファルークは誘拐の現場を目撃しているのだが、彼が隠れていた場所からはあまり見えも聞こえもしなかったのだ。が、顔を布で覆った美しい女性のエラドリンが襲撃者たちを率いていたのを彼は目撃しており、そして彼女はたいそうなれなれしくヴォーアに話しかけていたので、きっとヴォーアのことを知っているものに違いないとファルークは確信している。彼女はヴォーアの本も数冊持っていったのだが、それが何であったのかファルークは知らない。というのも、襲撃者たちはヴォーアの家を火をつけたので、彼は逃げ出さざるを得なかったのだ。

PCたちのモチベーションを高めるには、彼らがヴォーアと何らかの関係があったとするのが最もよい。ヴォーアは古代の歴史に詳しいとして有名であるということになっているので、これまでの冒険に登場して相応の関係を結んでおける英雄級のNPCとしてはうってつけなのである。また、パトロン役や雇われ賢者、あるいは導師として登場させるのも容易である。

主要クエスト：エムレットからヴォーアを救い出すこと。これによりPCたちは1,500XPを得、またアーキラーとファルークが約束したすべての報酬を得る。